静岡県文化施設指定管理業務に関する外部評価委員会の概要及び評価結果（期間評価）

令和８年 10 月
静岡県スポーツ・文化観光部文化政策課

１　施設名及び指定管理者名

静岡県舞台芸術公園　　公益財団法人静岡県舞台芸術センター

２　指定期間

令和４年４月１日～令和９年３月 31 日（５年間）

３　指定管理業務評価の流れ

（１）令和４年度から令和７年度までの指定管理業務について、指定管理者が提案内容をどの程度実施したかを明確にするため、指定管理者による自己評価を行った。

（２）県では、自己評価と事業実績の内容確認を行うとともに、必要な事項について指定管理者へのヒアリングを行い、県としての評価を行った。

（３）自己評価と県評価の内容を客観的に評価して、今後の指定管理業務の改善につなげるため、外部委員からなる評価委員会を開催し、指定管理者及び県へのヒアリングをもとに評価を行った。（開催日　令和８年８月 28 日）

【外部委員】

氏　名	職　名
岩﨑 邦彦	静岡県立大学　経営情報学部　教授
梶田 美於	梶田美於バレエスタジオ　代表
小島 孝仁	株式会社ＣＳＡ不動産　代表取締役社長
永井 聡子	静岡文化芸術大学　文化政策学部　教授
山本 雅弘	株式会社東平商会　代表取締役

４　評価結果

（１）外部委員による評価

ア　総合評価（５段階評価）

令和４年度から令和７年度の期間実績は、評価点「４．０」、「よく実施した」と判断した。

【評価点】

１．０～１．４	１．５～２．４	２．５～３．４	３．５～４．４	４．５～５．０
実施しなかった	不充分な実施だった	概ね実施した	よく実施した	大変よく実施した

イ　評価に関する意見

○　当該期間にわたり、概ね目標を達成し、適切な運営が行われている。今後とも、地域との連携をさらに強化するなど、この公園の個性や空間的な特性を最大限に生かした創意工夫を重ね、地域や県民との距離を一層縮め、より多くの県民に親しまれる公園となることを期待したい。

○　改善されてきているところは今後も伸ばしていただき、前年の方が良かったところは問題・課題を見つけ、利用者・スタッフがより満足できる企画、運営ができると良いと思う。あわせて舞台芸術公園で行われていることがＰＲできればさらに認知してもらえるのではないか。

○　公園に対する愛情は高く、維持管理に関する問題はない。地元農家やボランティア等、協力者も安定している。一方、課題である認知度は変わらず低く、とてももったいなく感じる。これまでの延長で認知度を上げることは難しい。例えば、演劇ファンを全国・海外から呼び込むことと、現時点で演劇に興味は無いが、一度見てみようと思ってくれそうな潜在的なファン候補層を呼び込むためのコラボイベントを仕掛けるなど、様々な取組を期待したい。

○　複数年にわたる指定期間を通じて、安定した施設運営と着実な自主事業の展開がなされたことを高く評価する。特に、長年の運営で培われたスタッフ・俳優の専門性やネットワークは施設の大きな財産となっている。次期指定期間においては、これまでの実績を基盤としつつ、時代や地域ニーズの変化を捉えた新たな挑戦や、さらなる発信力の強化に期待したい。

○　施設管理については適切に実施されている。地域との連携について、地域住民の日常的な利用の余地があると考えられる。例えば、SPAC が日ごろ稽古場・合宿所として活用している機能をより可視化し、SPAC の活動を来園者が認識できるようにするなど、地域住民や県民が、SPAC をより身近に感じられる公園へと発展することを期待したい。

（２）県評価の概要

ア　総評

（公財）静岡県舞台芸術センターは、指定管理業務を適正に実施したものと認められる。

イ　概要（提案項目別評価）

（ア）効果的・効率的な管理

・競争入札の実施による経費の削減。
・地域及びボランティアとの連携による公園の管理。

（イ）公園の特性や課題の認識及び県との協調連携

・県との課題認識及び協調連携による利活用の推進。
・公演時の交通の利便性の確保。

（ウ）維持管理計画

・スタッフや委託業者等とのネットワークの構築による計画的かつ安全で適切な維持管理の実施。
・維持管理上の支障が生じた際の専門業者との連携による素早い対応。

（エ）施設の破損等に対する対応策等

・関係者との日常的な情報交換による損傷箇所の早期発見と早期対応。
・県と連携した迅速な修繕対応による安全確保。

（オ）職員・常駐業者の能力育成

・日常的なＯＪＴの実施や外部研修への参加による技術者の育成。
・委託業者と職員による定期的な意見交換の実施。

（カ）施設等の使用団体の円滑な使用の確保

・専門的なノウハウを活かした支援をすることで、県民劇団等使用団体のスムーズな施設使用につなげた。

（キ）地域との連携

・公園の安全確保のため地域の様々な機関との連携体制を確保した。
・教育機関と連携した園地管理や、民間企業・旅行会社等と連携した地域イベントを開催し公園ＰＲにつなげた。